

大学院における助産師教育に対するニーズ調査

安河内静子*, 古田祐子*, 佐藤香代*

A Study in Needs Analysis for Graduate School-level Midwifery Education

Shizuko YASUKOCHI, Yuko FURUTA, Kayo SATO

Abstract

The purpose of this study is to comprehend the current status of need for midwifery education at graduate nursing school in order to utilize it as a material in initiation midwifery education at the graduate school of our university.

The subjects included 917 individuals: 212 students from Fukuoka Prefectural University's School of Nursing; 490 students from nursing schools in Kyushu, Okinawa, and Yamaguchi Prefecture; 71 students from nursing vocational schools within the Fukuoka Prefecture; 42 nurses working in Fukuoka Prefecture; and 102 midwives.

Of them, 81.9% subjects were in favor of initiation Midwifery Practical Formation Course in the graduate school of our university, 63.8% were interested in the course, and 38.9% wished to take the exam for admission in this course. Further, 82.4% were interested in Midwifery Advance Course, and 51% wished to take the exam for admission in this course.

The most important factor in selecting a graduate school was "cost" (67.7%), followed by "setups for practical training" (54.8%). The contents of education most wanted in a graduate school had been "solid practical training setup" (75.5%), followed by "solid curriculum" (68.0%).

Key words: graduate school education, midwifery graduate school, needs for higher education at graduate school, Fukuoka Prefecture

要 旨

本研究の目的は、本学大学院における助産師教育開設準備の資料とするために、大学院における助産師教育に対するニーズの状況を把握することにある。

対象は福岡県立大学看護学部学生212名、九州・沖縄・山口県内の看護系大学の学生490名、福岡県内の看護専修学校の学生71名、福岡県内の勤務看護師42名、助産師102名、以上917名である。学生及び看護師には、大学院（修士課程）での助産実践形成コース（助産師国家試験受験資格取得を目的とした助産師養成コース）設置に関するニーズ、助産師には、助産実践アドバンスコース（助産師免許有取得者を対象とした助産実践探究を目的としたコース）におけるニーズについて調査した。

大学院での助産実践形成コースの設置について賛成する者は81.9%であった。興味がある者が63.8%を占めていた。また、受験希望者は「ぜひ受験してみたい」、「受験してみたい」を合わせると38.9%であり、大学、専修学校、看護師にそれぞれ一定割合いることがわかった。助産師の助産実践アドバンスコースへの興味がある者は82.4%、受験希望者は51.0%であり、研究コースに比べ、興味や受験希望者率が高かった。

大学院選択時に重視する内容として「費用」が最も多く67.7%、次いで「実習体制」54.8%であった。大学院教育に望む内容については「充実した実習体制」75.5%、「授業科目（カリキュラムの充実）」68.0%の順に多かった。

看護系大学の学生、専修学校生、看護師、助産師の大学院における助産師教育へのニーズがあり、助産実践形成コースあるいは助産実践アドバンスコースの受験を希望する者がいずれにも存在することが明らかとなった。今後、これらのコースの受験希望につながるよう、本学の特性と魅力あるカリキュラム内容の広報活動を進め、受験者の確保に努める必要がある。

キーワード：大学院教育、助産師大学院、大学院進学ニーズ、福岡県

* 福岡県立大学看護学部臨床看護学系女性看護/助産学
Department of Woman's Health, Faculty of Nursing, Fukuoka
Prefectural University

連絡先：〒825-8585 田川市伊田4395番地
福岡県立大学看護学部臨床看護学系
安河内静子
E-mail: kouchi@fukuoka-pu.ac.jp

諸 言

保健師助産師看護師法及び看護師などの人材確保に関する法律の一部改正により（平成22年4月より施行）、助産師の基礎教育における修業年限が「6カ月」から「1年」以上に変更された（文部科学省，2009）。これに伴い、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令」（文部科学省，2011）が公布され、平成24年度より助産師教育の新カリキュラムが施行された。助産実践能力の強化や職業アイデンティティの育成が養成されるなど、資格取得にかかる教育のさらなる充実が求められ、助産師教育に必要な単位数は23単位以上から28単位以上と改められた。

ICM (International Confederation of Midwives) は、「助産師教育の世界基準 (2010)」において、助産師の基礎教育課程の最短期間を18か月間としており (ICM, 2010)、改訂されたわが国の助産師教育は未だ国際的な基準に達していない。

看護教育の内容と方法に関する検討会第一次報告 (厚生労働省, 2010) の中で、今後より強化されるべき助産師の役割と機能として、次の項目が提示された。①妊婦健康診査時の正常・異常の判別だけでなく、分娩時の緊急事態への対応、②院内助産所や助産師外来におけるより高い助産診断能力、③ハイリスク妊産婦に対し、妊婦健康診査から MFICU 等において産科知識と合わせた妊娠・産褥期の生活支援、④思春期から STI (性感染症) 予防や DV (家庭内暴力)・子どもの虐待の予防、女性の性に関わる課題への対応等である。

このように、わが国の周産期体制、疾病構造の変化、社会病的見地等から助産師へ求められる役割は年々変化し、女性のライフサイクル全体を視野に入れた高い実践力が求められている。本学看護学部における助産師教育は、統合カリキュラムとして平成17年度より実施してきたが、このカリキュラムでは、前述の質の高い助産師教育をすることは困難な状況にあり、大学院での教育が望まれる。

大学院 (修士課程・専門職学位課程) における看護系高度専門職業人養成の在り方に関する論点及びこれまでの意見等 (文部科学省, 2010) には、高度専門職者として助産師が挙げられている。北川 (2013) は、国際レベルでの知識・技術・行動を共有できる優れた人材育成に、大学院での助産師教育の意義があると述べている。本学においても、時代

の要請に対応できる助産師を育成するためには、教育内容やシステムの改革が必要であると考え、平成27年度より大学院での助産師教育を開設する方針が示された。

そこで、大学院開設準備として、看護系大学、専修学校の学生および福岡県内の勤務助産師、看護師を対象に本学大学院における助産師教育へのニーズを把握し、助産師学校選択時に受験生が重視する内容、入学後に助産師教育に望む教育内容などを明らかにすることを目的に調査を行った。

調査の結果を踏まえ、高度の助産実践能力を身につけた助産師の育成を目指す助産実践形成コース (助産師国家試験受験資格取得コース)、助産実践の探究を目的とした助産実践アドバンスコース (助産師免許有取得者を対象としたコース)、従来の助産学における研究や教育に必要な能力を修得するための助産学研究コースの3つのコースを設置することとなった。

方 法

1. 調査期間：平成25年4月～平成25年7月

2. 調査対象

- ①福岡県立大学看護学部 (以下本学) の1～3年生の女子学生
- ②本学以外の九州・沖縄・山口県内の看護系大学のうち、助産師教育を実施していない大学10校のうち、協力を得られた5校、助産師教育を学部選択制で実施している (大学院、助産別科、専攻科以外) 大学8校のうち協力を得られた3校の女子学生 (1～4年生)
- ③福岡県内の看護専修学校15校のうち、協力の得られた4校の女子学生
- ④実習病院・診療所10施設 (福岡県内) のうち協力を得られた6施設の助産師・看護師 (看護師免許のみ取得している者、あるいは看護師免許と保健師免許を取得している者)

3. 調査方法

学部長・学科長、あるいは、施設管理者、看護管理者へ依頼文書を送付し、FAXまたはメールで承諾を得た後、それぞれの施設が必要部数として提示した枚数の調査用紙を郵送し調査を依頼した。調査用紙は郵送にて回収した。

本学学生への配布数は232部、回収数212部 (回収率91.4%)、有効回答数212部 (有効回答率100%)

であった。九州・沖縄・山口県内の看護系大学への配布数は903部, 回収数493部 (回収率54.6%), 有効回答数490部 (有効回答率99.4%) であった。内訳は, 国立大学1, 私立大学6校であり, 福岡県内外を分類すると福岡県内4校, 県外3校であった。専修学校生への配布数は, 82部, 回収数71部 (回収率86.6%), 有効回答数71部 (有効回答率100%) であった。

看護師への配布数は58部, 回収数44部 (回収率75.9%), 有効回答数42部 (有効回答率95.5%) であった。助産師への配布数は119部, 回収数107部 (回収率89.9%), 有効回答数102部 (有効回答率95.3%) であった。

4. 調査内容

基本属性として, 学生には年齢と学年を, 看護師及び助産師には年齢と臨床経験年数を調査した。調査用紙は学生・看護師用, 助産師用の3種類を作成した。助産実践形成コースに関するニーズ調査は, 助産師免許を有しない学生及び看護師を対象とし, ①大学院での助産実践形成コースの設置に関する賛否, ②大学院の助産実践形成コースへの興味, 受験希望, ③助産師国家試験受験資格取得を目的に助産

師学校を選択する場合に重視する内容, ④大学院教育に望む教育内容の重要度について調査した。助産師免許有取得者 (助産師) を対象とした調査では, ①助産実践アドバンスコースと助産学研究コースに関する興味と受験希望, ②大学院教育に望む教育内容の重要度について調査した。

5. 分析方法

度数, 有効パーセントの算出には統計解析ソフトSPSS15.0 J for Windowsを使用した。

6. 倫理的配慮

調査協力依頼時に, 施設管理者に対し, 調査への協力は自由意志であることを文書にて説明した。また, 調査対象である学生及び職員に対しても, 調査への協力は自由意志であり, 協力の有無に関わらず個人の不利益にならないことを文書あるいは口頭にて説明した。調査用紙の記入をもって同意を得たものとした。

結果

1. 対象者の属性 (表1, 2)

本学の学生は1年生が最も多く, 212名中84名 (39.6%) であり, 看護系大学は3年生が490名中

表1 対象者の属性 (学生)

		本学 (n=212)		看護系大学 (n=490)		専修学校 (n=71)	
		n	(%)	n	(%)	n	(%)
学年	1年生	84	(39.6)	115	(23.5)	65	(91.5)
	2年生	67	(31.6)	103	(21.0)	5	(7.0)
	3年生	61	(28.8)	139	(28.4)	1	(1.4)
	4年生	0	0.0	133	(27.1)	—	—
年齢	10代	132	(62.3)	176	(35.9)	60	(84.5)
	20代	77	(36.3)	312	(63.7)	8	(11.3)
	30代	3	(1.4)	2	(0.4)	3	(4.2)

表2 対象者の属性 (看護師・助産師)

		看護師 (n=42)		助産師 (n=102)	
		n	(%)	n	(%)
年齢	20代	11	(26.2)	47	(46.1)
	30代	6	(14.3)	28	(27.5)
	40代	14	(33.3)	20	(19.6)
	50代	10	(23.8)	5	(4.9)
	60代	1	(2.4)	2	(2.0)
勤務年数	1～5年	9	(21.4)	47	(45.6)
	6～10年	4	(9.5)	21	(20.4)
	11～15年	5	(11.9)	10	(9.7)
	16～20年	9	(21.4)	12	(11.7)
	20年以上	15	(35.7)	13	(12.6)
所属	病院	40	(95.2)	88	(85.3)
	診療所	2	(4.8)	15	(14.7)

139名 (28.4%) と最も多かった。専修学校の学生は1年生がほとんどであり71名中65名 (91.5%) であった。病院・診療所の看護師は42名おり、年齢は40歳代が最も多く14名 (33.3%)、勤務年数は20年以上が15名 (35.7%) と最も多かった。助産師は102名おり、年齢は20歳代が最も多く47名 (46.1%)、勤務年数は1～5年が47名 (45.6%) と最も多かった。

2. 助産実践形成コース(助産師国家試験資格取得コース)に対するニーズ(表3, 4)

1) 大学院教育への賛否・興味・受験希望

本学学生は、大学院における助産師教育について「大いに賛成」104名 (49.1%)、「どちらかといえば

賛成」68名 (32.1%) であり、本学学生の81.2% が設置に賛同していた。また、「どちらかといえば反対」、「反対」は17名 (8.0%) であった。大学院での助産師教育に「大いに興味がある」は49名 (23.1%)、「少し興味がある」は83名 (39.2%) であり、本学学生の62.3% が興味を示していた。受験希望については、「是非受験したい」20名 (9.4%)、「受験してみたい」61名 (28.8%) であった。

本学以外の看護系大学生は、助産師教育について「大いに賛成」203名 (41.4%)、「どちらかといえば賛成」196名 (40.0%) であり、81.4% が賛成していた。また、大学院での助産師教育に「大いに興味がある」104名 (21.2%)、「少し興味がある」200

表3 助産実践形成コースに対するニーズ(本学の学年別比較)

		1年生 (n=84)		2年生 (n=67)		3年生 (n=61)		全体 (N=212)	
		n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
賛否	大いに賛成	57	(67.9)	21	(31.8)	26	(41.9)	104	(49.1)
	どちらかといえば賛成	21	(25.0)	25	(37.9)	22	(35.5)	68	(32.1)
	どちらかといえば反対	2	(2.4)	11	(16.7)	3	(4.8)	16	(7.5)
	反対	1	(1.2)	0	0.0	0	0.0	1	(0.5)
	わからない	3	(3.6)	9	(13.6)	11	(17.7)	23	(10.8)
興味	大いに興味がある	22	(26.2)	13	(19.7)	14	(22.6)	49	(23.1)
	少し興味がある	34	(40.5)	29	(43.9)	20	(32.3)	83	(39.2)
	あまり興味がない	26	(31.0)	22	(33.3)	21	(33.9)	69	(32.5)
	全く興味がない	2	(2.4)	2	(3.0)	7	(11.3)	11	(5.2)
受験希望	ぜひ受験してみたいと思う	13	(15.5)	4	(6.1)	3	(4.8)	20	(9.4)
	受験してみたい	21	(25.0)	24	(36.4)	16	(25.8)	61	(28.8)
	受験してみたいとは思わない	46	(54.8)	33	(50.0)	29	(46.8)	108	(50.9)
	全く思わない	4	(4.8)	5	(7.6)	14	(22.6)	23	(10.8)

表4 助産実践形成コースへのニーズ

		本学 (n=212)		看護系大学 (n=490)		専修学校 (n=71)		看護師 (n=42)		全体 (N=815)	
		n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
賛否	大いに賛成	104	(49.1)	203	(41.4)	34	(47.9)	22	(52.4)	363	(44.5)
	どちらかといえば賛成	68	(32.1)	196	(40.0)	28	(39.4)	13	(31.0)	305	(37.4)
	どちらかといえば反対	16	(7.5)	18	(3.7)	0	0.0	1	(2.4)	35	(4.3)
	反対	1	(0.5)	6	(1.2)	0	0.0	0	0.0	7	(0.9)
	わからない	23	(10.8)	67	(13.7)	9	(12.7)	6	(14.3)	105	(12.9)
興味	大いに興味がある	49	(23.1)	104	(21.2)	20	(28.2)	3	(7.1)	176	(21.6)
	少し興味がある	83	(39.2)	200	(40.8)	33	(46.5)	28	(66.7)	344	(42.2)
	あまり興味がない	69	(32.5)	139	(28.4)	17	(23.9)	10	(23.8)	235	(28.8)
	全く興味がない	11	(5.2)	47	(9.6)	1	(1.4)	1	(2.4)	60	(7.4)
受験希望	ぜひ受験してみたいと思う	20	(9.4)	24	(4.9)	4	(5.6)	0	0.0	48	(5.9)
	受験してみたい	61	(28.8)	166	(34.2)	30	(42.3)	12	(28.6)	269	(33.0)
	受験してみたいとは思わない	108	(50.9)	231	(47.6)	32	(45.1)	25	(59.5)	396	(48.6)
	全く思わない	23	(10.8)	64	(13.1)	5	(7.0)	5	(11.9)	97	(11.9)

100%に満たない項目は無回答を除いて計算

名(40.8%)であり,看護系大学生の62.0%の学生が興味を持っていた。「是非受験したい」は24名(4.9%),「受験してみたい」は166名(34.2%)であった。

専修学校生は,助産師教育について「大いに賛成」34名(47.9%),「どちらかといえば賛成」28名(39.4%)であり,興味については「大いに興味がある」20名(28.2%),「少し興味がある」33名(46.5%)であった。また,「是非受験したい」4名(5.6%)「受験してみたい」30名(42.3%)であった。

看護師は,大学院における助産師教育について「大いに賛成」22名(52.4%),「どちらかといえば賛成」13名(31.0%)であり,興味については,「大いに

興味がある」3名(7.1%),「少し興味がある」28名(6.5%)であった。「是非受験したい」はいなかったが,「受験してみたい」は12名(28.6%)であった。

2) 助産師学校選択時に重視する内容(図1-1~1-5)

本学学生,看護系大学生,専修学校生,看護師の中で,大学院での助産師教育に「大いに興味がある」,「少し興味がある」と回答した者(520名)に,助産師学校を選ぶにあたって重視する内容を選択してもらったところ(複数回答),最も多かったのは「費用」であり67.7%,次いで「実習体制」54.8%,「学位」42.5%であった。特に「費用」は,看護系大学72.4%,看護師83.9%と7割以上を占めてい

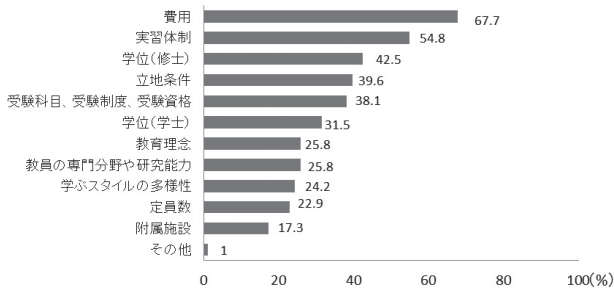


図1-1 助産師学校選択時に重視すること (全ての対象) (複数回答) (N=520)

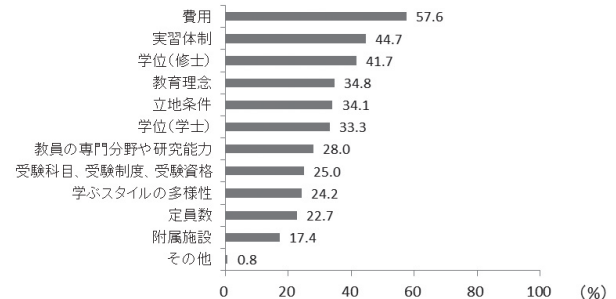


図1-2 助産師学校選択時に重視すること <本学> (複数回答) (N=132)

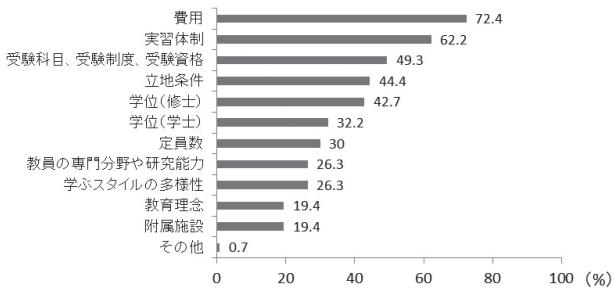


図1-3 助産師学校選択時に重視すること <看護系大学> (複数回答) (N=304)

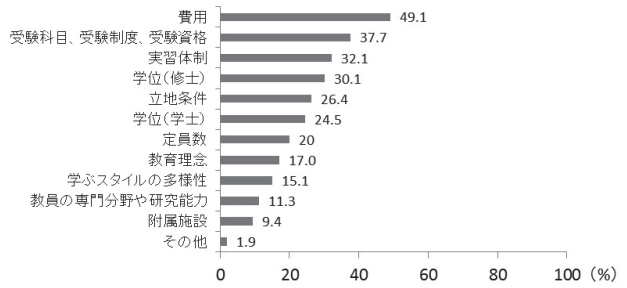


図1-4 助産師学校選択時に重視すること <専修学校> (複数回答) (N=53)

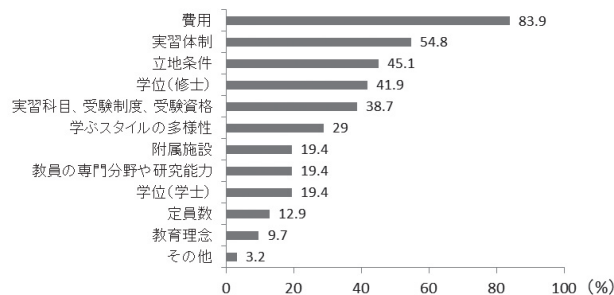


図1-5 助産師学校選択時に重視すること <看護師> (複数回答) (N=31)

た。また、「学位」(修士)を重視する者は、いずれの学校も3割以上いた。

3. 大学院における助産実践力向上(助産実践アドバンスコース)、助産学研究コースに対するニーズについて(表5)

助産師を対象に回答を得た。大学院における助産実践力向上(助産実践アドバンスコース)について「大いに興味がある」は31名(30.4%)、「少し興味がある」は53名(52.0%)であり、82.4%の助産師が助産実践アドバンスコースに関心を持っていた。

各年代別にみると、「大いに興味がある」、「少し興味がある」を合わせた割合は40歳代が最も多く18名(90.0%)、次いで30歳代が25名(89.3%)、20歳代が36名(76.6%)であった。

助産師の受験希望は、「ぜひ受験してみたい」6名(5.9%)、「受験してみたい」46名(45.1%)であり、合わせた割合を年代別にみると40歳代が最も多く13名(65.0%)、次いで20歳代25名(53.2%)、30歳代11名(39.2%)の順であった。

既存の研究コースに対しては、「大いに興味がある」4名(3.9%)、「少し興味がある」25名(24.5%)であり、「ぜひ受験したい」3名(2.9%)、「受験してみたい」15名(14.7%)であった。

4. 大学院教育に望む教育内容の重要度について(表6)

大学院における助産コース(助産実践形成コース、助産実践アドバンスコース、研究コース)を、「ぜひ、受験してみたい」あるいは「受験してみたい」と回答した者372名に対し、大学院における助産師教育に望む教育内容の重要度について、「とても重要」から「重要でない」の5件法で回答してもらった。

「とても重要」と回答した項目で最も多かったのは、「充実した実習体制」281名(75.5%)、次いで「授業科目(カリキュラムの充実)」253名(68.0%)、「演習、研究を行うための充実した環境」207名(55.6%)であった。「研究へのサポート体制」を「とても重要」と回答したのは、本学学生の割合が最も多く49名(60.5%)、次いで専修学校生18名(52.9%)、助産師24名(44.4%)、看護系大学生80名(42.1%)、看護師2名(16.7%)であった。「開業助産師による教育と実習」を「とても重要」と回答した者は、専修学校生の割合が最も多く21名(61.8%)、次いで、本学学生41名(50.6%)、助産師27名(50.0%)、看護師5名(41.7%)、看護系大学生77名(40.7%)であった。「外部講師を導入した学習機会の多様性と充実」を「とても重要」と回答した割合は助産師

表5 助産師免許有資格者の大学院教育(助産実践アドバンスコース・研究コース)へのニーズ(年代別)

		20代 (n=47)		30代 (n=28)		40代 (n=20)		50代 (n=5)		60代 (n=2)		全体 (N=102)	
		n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
興味	大いに興味がある	13	(27.7)	8	(28.6)	7	(35.0)	2	(40.0)	1	(50.0)	31	(30.4)
	少し興味がある	23	(48.9)	17	(60.7)	11	(55.0)	2	(40.0)	0	0.0	53	(52.0)
	あまり興味がない	10	(21.3)	3	(10.7)	2	(10.0)	1	(20.0)	1	(50.0)	17	(16.7)
	全く興味がない	1	(2.1)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	(1.0)
アドバンスコース	ぜひ受験してみたいと思う	3	(6.4)	1	(3.6)	2	(10.0)	0	0.0	0	0.0	6	(5.9)
	受験してみたい	22	(46.8)	10	(35.7)	11	(55.0)	2	(40.0)	1	(50.0)	46	(45.1)
	受験してみたいとは思わない	19	(40.4)	16	(57.1)	6	(30.0)	2	(40.0)	0	0.0	43	(42.2)
	全く思わない	3	(6.4)	1	(3.6)	1	(5.0)	1	(20.0)	1	(50.0)	7	(6.9)
興味	大いに興味がある	1	(2.1)	2	(7.1)	0	0.0	0	0.0	1	(50.0)	4	(3.9)
	少し興味がある	8	(17.0)	5	(17.9)	9	(45.0)	3	(60.0)	0	0.0	25	(24.5)
	あまり興味がない	30	(63.8)	14	(50.0)	7	(35.0)	1	(20.0)	1	(50.0)	53	(52.0)
	全く興味がない	8	(17.0)	7	(25.0)	4	(20.0)	1	(20.0)	0	0.0	20	(19.6)
研究コース	ぜひ受験してみたいと思う	1	(2.1)	2	(7.1)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	(2.9)
	受験してみたい	4	(8.5)	4	(14.3)	4	(20.0)	2	(40.0)	1	(50.0)	15	(14.7)
	受験してみたいとは思わない	29	(61.7)	16	(57.1)	11	(55.0)	2	(40.0)	1	(50.0)	59	(57.8)
	全く思わない	13	(27.7)	6	(21.4)	5	(25.0)	1	(20.0)	0	0.0	25	(24.5)

表6 大学院教育に望む教育内容の重要度について (大学院受験希望のある者)

		本学 (n=81)		看護系他大学 (n=190)		専修学校 (n=34)		看護師 (n=12)		助産師 (n=55)		全体 (N=372)	
		n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
充実した実習体制	とても重要	61	(75.3)	145	(76.3)	28	(82.4)	8	(66.7)	39	(76.5)	281	(75.5)
	まあまあ重要	17	(21.0)	41	(21.6)	4	(11.8)	4	(33.3)	10	(19.6)	76	(20.4)
	どちらともいえない	3	(3.7)	3	(1.6)	2	(5.9)	0	(16.7)	2	(3.9)	10	(2.7)
	あまり重要でない	0	0.0	1	(0.5)	0	0.0	0	0.0	0	(2.0)	1	(2.7)
	重要でない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
授業科目(カリキュラムの充実)	とても重要	61	(75.3)	120	(63.2)	25	(73.5)	9	(75.0)	38	(71.7)	253	(68.0)
	まあまあ重要	18	(22.2)	68	(35.8)	9	(26.5)	3	(25.0)	13	(24.5)	111	(29.8)
	どちらともいえない	1	(1.2)	1	(0.5)	0	0.0	0	0.0	1	(1.9)	3	(0.8)
	あまり重要でない	1	(1.2)	1	(0.5)	0	0.0	0	0.0	1	(1.9)	3	(0.8)
	重要でない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
演習, 研究を行うための充実した環境	とても重要	46	(56.8)	98	(51.9)	21	(61.8)	8	(66.7)	34	(66.7)	207	(55.6)
	まあまあ重要	27	(33.3)	82	(43.4)	11	(32.4)	2	(16.7)	14	(27.5)	136	(36.5)
	どちらともいえない	8	(9.9)	8	(4.2)	2	(5.9)	2	(16.7)	2	(3.9)	22	(5.9)
	あまり重要でない	0	0.0	1	(0.5)	0	0.0	0	0.0	1	(2.0)	2	(0.5)
	重要でない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
研究へのサポート体制	とても重要	49	(60.5)	80	(42.1)	18	(52.9)	2	(16.7)	23	(43.4)	172	(46.2)
	まあまあ重要	22	(27.2)	86	(45.3)	10	(29.0)	7	(58.3)	21	(39.6)	146	(39.2)
	どちらともいえない	8	(9.9)	22	(11.6)	5	(15.0)	3	(25.0)	7	(13.2)	45	(12.1)
	あまり重要でない	1	(1.2)	2	(1.1)	1	(3.0)	0	0.0	2	(3.8)	6	(1.6)
	重要でない	1	(1.2)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.2
開業助産師による教育と実習	とても重要	41	(50.6)	77	(40.7)	21	(61.8)	5	(41.7)	25	(49.0)	169	(45.4)
	まあまあ重要	31	(38.3)	95	(50.3)	9	(26.5)	4	(33.3)	24	(47.1)	163	(43.8)
	どちらともいえない	8	(9.9)	13	(6.6)	3	(8.8)	2	(16.7)	1	(2.0)	27	(7.3)
	あまり重要でない	0	0.0	4	(2.1)	0	0.0	1	(8.3)	0	0.0	5	(13.4)
	重要でない	1	(1.2)	0	0.0	1	(2.9)	0	0.0	1	(2.0)	3	(0.8)
外部講師を導入した学習機会の多様性と充実	とても重要	34	(42.0)	57	(30.0)	13	(38.2)	4	(33.3)	31	(54.7)	139	(37.4)
	まあまあ重要	36	(44.4)	97	(51.1)	18	(52.9)	6	(50.0)	16	(30.2)	173	(46.5)
	どちらともいえない	11	(13.6)	32	(16.8)	2	(5.9)	2	(16.7)	7	(11.3)	54	(14.5)
	あまり重要でない	0	0.0	4	(2.1)	1	(2.9)	0	0.0	2	(3.8)	7	(1.9)
	重要でない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

が31名(57.4%)と最も多く、次いで本学学生34名(42.0%)、専修学校生13名(38.2%)、看護師4名(33.3%)、本学以外の看護系大学生57名(30.0%)であった。

考 察

1. 助産実践形成コースへのニーズ

わが国の大学院における助産師教育校は、平成16年度に1校であったが、平成26年4月現在では、24校に増加している。大学学部選択制は平成20年度99校であったが、平成26年度には73校に減少しており、助産師教育の大学院化に伴い、暫時、減少することが予想される。

今回の調査では、助産実践形成コースへの賛否に

については8割の学生が賛成の意思を示し、反対は1割にも満たなかった。また、助産実践形成コースへの興味については「大いに興味がある」、「興味がある」を合わせ、6～7割の学生が興味を持っていることがわかった。柴田ら(2012)は、学部の学生は大学院での助産師教育の必要性について高い認識を持っていると述べており、曾田、小松、川田(2005)は大学院における助産師教育課程が新設された場合、これまでの教育課程に比べ進学希望者が増加すると報告している。これらのことから大学院での助産師教育に対するニーズは高まっている現状にあると考える。

一方、本学の3年生の受験希望は「ぜひ受験したい」は4.8%と少なかった。これは、学部で助産師

選択課程を受験できる最終年度であったことが起因していると考えられる。しかし、「受験してみたい」も25.8%あった。このことから考えると、この中に学部卒業と同時に、あるいは将来的に大学院受験を希望する者がいると推測される。また学年別にみると、「ぜひ受験してみたい」は1年生が15.5%、2年生6.1%であった。これまでの助産師教育課程選考試験受験者数は学生の1割程度であったことから、卒業と同時に大学院への進学を希望する者が同程度いると推測される。

また、他の看護系大学、専修学校の学生の中にも、「ぜひ受験したい」が5%前後いたことから、他校から受験する者がいると予測され、受験機会の公平性が求められる。

看護師は、助産実践形成コースに対し「大いに賛成」は52.4%が最も多かった。しかし、「大いに興味がある」は7.1%、「ぜひ受験してみたいと思う」は0%であり、興味や受験の意思の低さが伺える。木地谷ほか(2012)は、助産師免許を有さない看護職の大学院における助産師養成課程進学希望率は4.2%と低く、進学に必要な条件として「現場での休職ができること」を半数が求めていたと報告している。看護師が受験する場合、社会人も学びやすいカリキュラムの提示が求められるところである。しかし、現実には最低58単位を取得する助産実践形成コースは昼間開講であり、就労しながらの進学は困難である。また助産師学校受験時に「費用」を最も重視すると回答していたことを考えると、経済的負担が看護師の大学院受験ニーズを低下させる要因になっていると考えられる。看護師が大学院を受験するには、病院の休職制度や修了後の再雇用制度が求められる。

2. 助産実践アドバンスコース、助産学研究コースに関するニーズ

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告(文部科学省, 2011)では、看護系大学院における人材養成において、看護学の学術研究を通じて社会に貢献できる研究者や教育者の養成、学士課程では養成困難な、特定領域の高度専門職業人や、保健、医療、福祉などに携わる専門職の協働において、マネジメント能力を発揮できる人材の養成を目指すことが示されている。

助産師は「自身の能力の維持・向上」「本や資料で得られない知識・技術を学ぶ」などの理由で卒後

教育へのニーズが高い(我部山, 岡島, 2010)。岡田ほか(2005)の調査でも助産師免許を有する看護職者の38.1%が大学院への受験希望があったと報告している。本調査においても、助産実践アドバンスコースに「大いに興味がある」あるいは「少し興味がある」者が8割以上を占め、受験希望については「ぜひ受験してみたい」あるいは「受験してみたい」と回答した者は約5割であった。これらのことから、助産師は大学院で実践力向上を求めていると考えられる。

日本看護協会は、勤務助産師に対し助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)の導入を推進しており、各施設に自立した助産ケア能力に対応できる教育プログラムを求めている。大学院では助産師のキャリア形成を見据えた助産実践者としての資質や実践力を向上させるための教育の場を提供し、特に助産実践アドバンスコースは、その要求に対応できる教育内容を提供することができると考えられる。

助産学研究コースは、特に学術研究を通じて社会に貢献できる研究者や教育者の養成を担うコースであり、助産学の発展に寄与することが期待される。しかし、助産学研究コースについては、「大いに興味がある」より「少し興味がある」が多く、助産実践アドバンスコースに比べると興味は低かった。同様に「ぜひ受験してみたい」あるいは「受験してみたい」と回答した助産師は17.6%と助産実践アドバンスコースより低かった。これらのことから、助産師は大学院では、教育研究よりも実践力向上を求めていると考えられるが、いずれのコースにもニーズがあり、それぞれの助産師の将来的な役割を見据えた2つのコースとして、教育内容の充実を図る必要がある。

3. 大学院選択要因と教育に対するニーズ

わが国における助産師養成コースは、専門職大学院、大学院、大学、大学専攻科、大学別科、短期大学専攻科、専修学校がある。平成26年3月末時点における福岡県下の助産師養成校は9校(大学院2校、大学専攻科1校、大学別科1校、大学2校、専修学校3校)あり、本学は公立大学として助産教育を設置している。

今回の調査により助産師学校を選択する場合に最も重視する要因は、「費用」であることが明らかとなった。特に看護系大学の学生に着目すると「費用」は、「立地条件」や「受験科目、受験制度、受

験資格」より優先されており，7割以上を占めていた。本学は公立大学であり，「費用」の面では私立より負担が少ない。県内の大学院2校はいずれも私学であり，経済的負担を考えると大学院での助産師教育を希望する者は本学受験を選択の一つとして考慮する可能性がある」と推測される。

次に，大学院教育に望む教育内容の重要度についてニーズの高かった項目は，「充実した実習体制」「授業科目（カリキュラムの充実）」の順であった。他校では県外での実習も行っているが，本学は実習施設すべてが福岡県内であり，1施設，学生1～2名に対し，1人の教員を配置している。今後もこの実習環境の利点を生かしながら実習施設との連携をより強化し，「充実した実習体制」の整備を図りたいと考える。

また，「授業科目」については，時代のニーズに応じた教育を発信することが大学院に求められている。そのため，58単位中46単位が助産学に関連した科目を準備し，そのほとんどの科目を専任教員で対応する。特に，東洋医学・代替補完療法など妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康支援に必要な知識や高度な技術を学び，ホリスティック（全人的）な人間理解を基盤に助産実践能力の強化を図り，本学の特色ある教育カリキュラムを提供したいと考える。

今回の調査は，本学の大学院を受験する対象者の多くが福岡県内をはじめとする九州圏内であることを想定した結果であり，大学院助産学コース設置の資料として活用できるものとする。今後この調査をもとに，本学の特色と魅力あるカリキュラム内容の広報活動を進め，受験者の確保に努めることが必要である。

研究の限界

本研究は，九州・沖縄・山口県内の看護系大学18校に対し7校の結果であり，すべての看護系大学の学生の意思を反映したものではない。また看護師，助産師においては実習施設を対象としており，特に看護師については回答数が少なく対象の偏りが否めない。

結 論

今回の大学院における助産師教育に対するニーズ調査の結果から以下のことが明らかとなった。

①助産実践形成コースについては，8割以上が賛

成，6割以上が興味を示した。受験希望者は約4割であった。

②助産実践アドバンスコースについては，8割以上が興味を示し，受験希望者が約5割であった。

③助産学研究コースよりも助産実践アドバンスコースに興味を示す者が多かった。

④助産師学校を選択する場合に重視する内容は，「費用」，「実習体制」，「学位（修士）」，「立地条件」の順であった。

⑤助産師教育に望む教育内容で重要度の高かったのは，「充実した実習体制」，「授業科目（カリキュラムの充実）」であった。

以上のことより，看護系大学の学生，看護師，助産師の大学院における助産師教育へのニーズがあり，助産実践形成コース，助産実践アドバンスコースいずれも受験を希望する者が存在することが明らかとなった。

謝 辞

本調査にご協力頂きました看護系大学，専修学校の担当者様，学生の皆さま，ならびに実習施設の看護師，助産師の皆さまに心より感謝申し上げます。

文 献

- 我部山キヨ子，岡島文恵．（2010）．助産師の卒後教育に関する研究 助産師の卒後教育への必要性・時期・内容など．*母性衛生*，51（1），198-206．
- ICM．（2010）．Global Standard for Midwifery Education，2014/4/8参照，
<http://www.internationalmidwives.org/what-we-do/education-core-documents/global-standard-education/>
- 木地谷祐子，安藤広子，水野仁子，金谷掌子，アンガホッフア司寿子，蛸崎奈津子，野口恭子，福島裕子，藤田美香．（2012）．岩手県における助産師教育課程に関するニーズ調査．*岩手県立大学看護学部紀要*，49-59．
- 北川真理子．（2013）．大学院での助産師教育の意義．*看護教育*，54（11），1003-1009．
- 厚生労働省．（2010）．「看護教育の内容と方法に関する検討会 第一次報告」2014/4/8参照，
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001310q-att/2r9852000001316e.pdf>
- 文部科学省．（2009）．保健師助産師看護師法及び看

- 護師などの人材確保に関する法律の一部を改正する法律. 2014/4/8参照,
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1282565.htm
- 文部科学省. (2010). 大学院（修士課程・専門職学位課程）における看護系高度専門職業人養成の在り方に関する論点及びこれまでの意見等 2014/9/22参照,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/siryo/attach/1299990.htm
- 文部科学省. (2011). 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令（通知）. 2014/4/8参照,
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kango/1305957.htm
- 文部科学省. (2011). 「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」. 2014/4/8参照,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf
- 村上明美. (2013). 大学で看護と助産の両方を学ぶということ. *看護教育*, 54(11), 994-997.
- 岡田由香, 高橋弘子, 保田ひとみ, 神谷摂子, 山下恵, 宮本江利子, 近藤幸枝, 小松万喜子, 川田智恵子. (2005). 愛知県立看護大学の教育改革に関する調査 (3) - 助産師の本学大学院への進学ニーズ-, *愛知県立看護大学紀要*, 87-93.
- 柴田美佳, 小林眞生, 田村彩乃, コリ一紀代, 荒木奈緒, 荻田珠江, 佐川 正. (2012). 大学院修士課程での助産師教育に対する看護学生の意見. *北海道産科婦人科学会会誌*, 56(1), 11-20.
- 曾田陽子, 小松万喜子, 川田智恵子. (2005). 愛知県立看護大学の教育改革に関する調査 (7) - 本学学部生の本学大学院への進学ニーズ-, *愛知県立看護大学紀要*, 125-132.
- 渡邊典子. (2013). 大学での助産師教育. *看護教育*, 54(11), 986-992.
- 全国助産師教育協議会. (2010). ICM 基本文書, 「専門職としての助産師教育のためのモデルカリキュラムの概要2012年」. 2014/4/8参照,
www.zenjomid.org/info/img/201312_icm_j.pdf

受付 2014. 9. 29

採用 2015. 1. 7